謹賀新年

No. 145　2022. 1
（株）よかネット

NETWORK
よかネット　40 周年を振り返る …… 2
皆様から寄せられた「よかネット」へのご意見、近況などの紹介 …… 7
近況
今日をみて、明日に備える …… 8
10 周年記事を読み返して …… 9
地域資源を活用した産業振興の支援 …… 10
必要とされる専門家をめざして …… 10
8/40 …… 11
オタ活コロナに邪魔され続ける …… 11
ドメーヌ・テッタに行って来ました …… 12
色々な場所をめぐりたい …… 13
表紙解説 …… 14

●新型コロナによる福岡市内主要エリアの人流の変遷

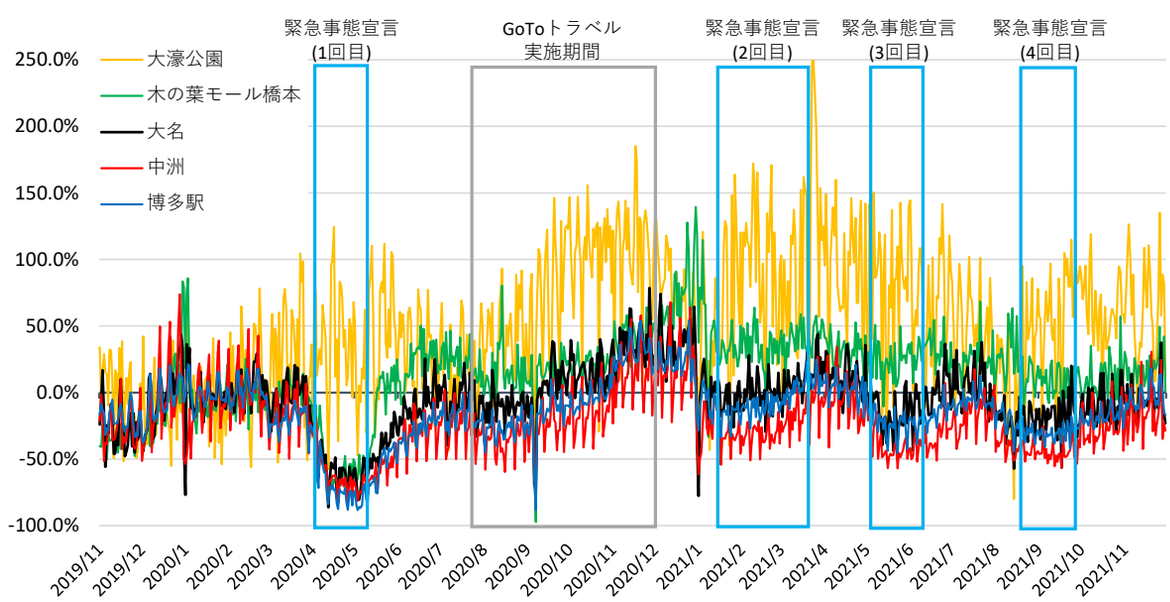
KDDI のスマートフォン GPS データを活用して、コロナ禍以前の 2019 年 11 月 1 日から 2021 年 11 月 30 日までの、福岡市内主要エリア（博多駅、木の葉モール橋本、大名、中洲、大濠公園）の入込増減比率（2020 年 1 月～ 2 月の入込状況を基準に比率を算出、詳細は 14 頁の表紙解説参照）を集計しました。

各地点の入込状況を見ると、最初の緊急事態宣言発出後の 2020 年 4 月末は、「大濠公園」を除く各エリアでは、連日 7 ～ 9 割減少し、その後 GoTo トラベル事業の恩恵で回復したものの、2020 年 12 月以降は緊急事態宣言発出のたびに人流が減少している状況が見えます。

「博多駅」や「中洲」ではほぼ全ての期間、コロナ禍前を下回っていますが、屋外の「大濠公園」や、郊外のショッピングモール「木の葉モール橋本」、若者の街である「大名」は、「中洲」や「博多駅」と比較して落ち込みが少ない状況です。また、全てのエリアにおいて、「福岡市」からの来訪者の割合がコロナ禍以前を上回る、所謂「マイクロツーリズム」の状況も見られます。

今後も、こうしたコロナ禍からの回復状況を定期的にモニタリングしていきます。

■新型コロナによる福岡市内主要エリアの人口の減少率



よかネット　40周年を振り返る

山田　龍雄　山辺　眞一　所員一同

弊社は、昭和51（1976）年10月に（株）地域計画建築研究所（アルパック）の九州事務所として都市計画・まちづくりのコンサルタントとして創業したのが始まりです。その後、 昭和57（1982）年1月に分離独立し、九州に根付いたコンサルタントを目指し、九州地域計画建築研究所（2年後の1984年に九州地域計画研究所、2000年に（株）よかネットに社名変更）を設立しました。

40周年とは、昭和57（1982）年1月にアルパックから分離独立してから、令和4（2022）年1月までの40年のことです。

山田、山辺は、昭和56（1981）年4月にアルパックに入社し、分離独立後も在籍したので、弊社の40年の歴史とともに、歩んできました。長いようで短いような40年でしたが、40年間も続けてこられたのは、多くの方々のご支援の賜物であり、この場をお借りして感謝申し上げます。

今回は、40年間の活動のなかでエポックとなった出来事、体験を振り返りたいと思います。

●「ちょっと手伝って」が、3日連続の午前様

山田は、入社予定日前に挨拶しておいた方が良いだろうと思い、昭和56（1981）年3月27日の16時頃に事務所に伺いました。事務所に入って、簡単に自己紹介するやいなや、当時の九州事務所の嶋田所長から「ちょうど良いところに来てくれた。今、国鉄ヤード跡地の土地利用で、集合住宅の絵を書かないといけない。ちょっと手伝ってくれ。」と言われました。事務所内では総出で作業に取り組んでおり、締切りに間に合わせなくてはならないといった緊張感もあり、断れる訳はありません。

早速、計画条件を聞き、作業に取り掛かると、なんと当日は、午前2～3時までかかり、確か3日間連続での午前様となってしまいました。

私の力量不足もあったのでしょうが、コンサル業界の厳しさ､忙しさが身にしみ込んだ夜でした。

●ネットワークづくりからの営業活動

入社した頃の顧客は、日本住宅公団（現在のＵＲ都市機構）、福岡県、福岡市、日本国有鉄道（現在のＪＲ）など限られた事業所や自治体であり、営業先は少なく、知り合い等から相談がある物件の仕事が主でした。営業先の開拓のために出かけて新たな開拓をするなどはほとんどしていませんでした。

アルパックから分離独立してから、経営改革のため九州地域計画研究所の所長として糸乗さん（当時は本社の専務）を迎え、自治体へのあいさつ回り、まちづくりや都市計画等をテーマにした勉強会など、外向き営業、ネットワークづくり等に取り組みました。

＜ひとネット・よかネット発行＞

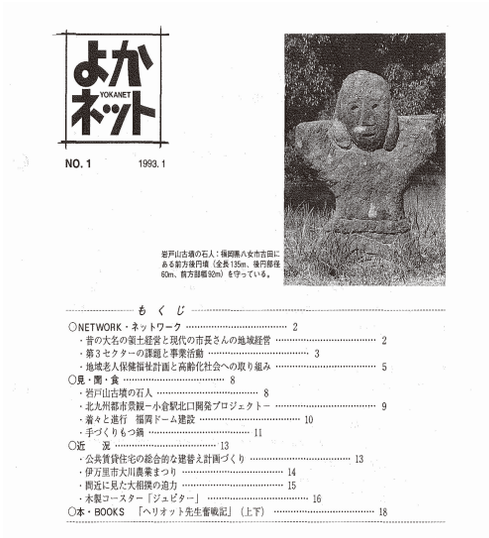
自治体にあいさつ回りをすると言っても、単に名刺を置いて「こんにちは」だけでは印象が薄く、事務所の存在を分かってもらえません。そこで、アルパックが発行していた「アルパック　ニュース・レター」を営業ツールとして、スタッフごとに担当エリアを決め、自治体回りを行いました。

私は筑豊地域担当でしたが、営業回りなどの経験はゼロ、初めて名刺を渡し、事務所と機関紙の説明に少し緊張したことを覚えています。

その後、現在の機関紙「よかネット」の前身に当たる「ねっとわーく通信（1991～1992）」を九州北部研究学園都市の情報発信をきっかけに発行しました。「よかネット」に名称を改め、平成5（1993）年1月に第1号を発行し、現在に至っています。

九州地域計画研究所となって11年目の平成5（1993）年に、これまでの記事記録をまとめ、「10周年記念～ひとネット・よかネット」を発行しました。今は、コロナ禍で「よかネット」を持参しての自治体周りはあまりできていませんが、お世話になった自治体の方々にお会いし、話をさせていただくと担当課の抱えている悩みや地域の課題を聞くことができ、新たな仕事のヒントにつながることもあります。やはり、時々は対面式の挨拶は大切であろうと思います。

ひとネット・よかネット



よかネット　第１号

＜地域ゼミ開始＞

第１回地域ゼミは、昭和 59（1984）年 12 月に「土地信託」をテーマに、住友信託銀行から講師をお呼びして行いました。第４回目には「中国のまちづくり」というテーマで故青木正夫（九州大学工学部建築学科名誉教授）にも話していただきました。この頃は会議室がなかったので、参加者が 10 数人を超えると近くの旅館の大広間を借りて、車座で地域ゼミを行っていました。今では、懐かしい想い出となっています。

当時は都市計画や住宅需要等の仕事が多かったため、再開発の事業手法や住宅需要の考え方などのテーマが主であり、当時の専門家（コンサルタントの技術者、大学の先生など）にスピーカーになっていただきました。参加者は 10 数名程度で、講演後は喧々諤々と意見を言い合い、さらに第２会議室（居酒屋）で酒を酌み交わしながらの意見交換が続き、参加者との親睦を図ってきました。

今でも、事務所会議で地域のニーズや今の仕事に関係するテーマを絞りこみ、２か月に１回程度の頻度で実施しています。一昨年からコロナ禍で開催していませんが、これまでの 40 年間で 142 回、実施しています。

＜機関紙「よかネット」の発行＞

ネットワークづくり、所員の力量アップ、まちづくり等の事例の蓄積を目的に平成５（1993）年１月に機関紙「よかネット」第１号を発行しました。これまでお世話になった方々に無料で配布しています。14 年間は、２か月に１回、年６回発行していましたが、少人数で２か月単位でのネタ探しと編集は大変でした。今思うと、仕事もしながら良くやっていたと思います。仕事量も増えてきたため、仕事とのバランスを考え、平成 19（2007）年からは、３か月ごと（１月、４月、７月、10 月）の４回発行に変更しました。機関紙「よかネット」は、弊社の財産であり、アイデンティであると思いますので、今後とも引き継いで発行を続けてもらいたいと思います。

平成 16（2004）年には、これまでの記事を分野別（地域経営・産業構造編、観光サービス・地域文化・農業編）、地域産業・ベンチャービジネス編）に編集しなおし、発行しました。

＜よかネットパーティ＞

昭和 61（1986）年に受託した「特産品開発調査・計画」をきっかけに、各地の特産品の調査研究に取り組み、新しい事務所に引越をした際に、これまでお世話になった人をお招きし、事務所でパーティを行ったのが、平成５（1993）年の第１回よかネットパーティでした。２回目からは参加者の持ち寄り（美味しい食べもの、お酒、面白い話）型のパーティとし、平成７（1995）年までは事務所の会議室、平成８（1996）年は太宰府市有智山荘、平成９年（1997）年は博多区櫛田神社、平成 10（1998）年の第６回からは警固神社の社務所で行い、20 年間続けました。

しかし、持ち寄り型といっても、お客様に満足

第13回よかネットパーティー（2005年5月）
警固神社の社務にての持ち寄りパーティー
お世話になった所の人が集い、交流しています。

してもらうために、こちらで一定程度は美味しいもの、お酒を用意し、当日は準備から、パーティ中の皿やコップの片づけ等で所員はてんてこ舞い。なかなかお客さんとの交流もままならず、また、警固神社での飲酒も禁止となったことから20年を区切りに終了とさせていただきました。

しかし、このパーティではお客さん同士の交流も生まれ、弊社だけではなく、参加者も含めてネットワークづくりに貢献したのではないかと思います。

●住宅計画・都市整備等の業務中心から多様な仕事のコンサルタントへ

エポックとなった業務を分野別に整理してみると、業務範囲の拡大、変化は地域課題やニーズ、変化に伴うものとなっています。逆説的に言うと、まちづくり・都市計画等を主体としたコンサルタントは、変化していかないと飯が食えない業態とも言えます。

①研究学園都市づくりの新たなネットワーク

昭和61（1986）年、飯塚市で行われた若手経済人の勉強会に誘われた山辺が、その勉強会講師だった福岡県企画調整課の久保さんと出会ったのが、研究学園都市建設構想調査に関わるきっかけでした。この調査が昭和62（1987）年から2ヶ年にかけて行なわれ、九州北部地域での学術研究振興の検討・提案、そして、学研都市構想の最初の取り組みでした。

以降、推進会議、拠点市会議等、産学官共同の取組みが行われ、九州大学のキャンパス移転プロジェクトや佐賀県の九州シンクロトロン光研究センターなど、各地のプロジェクトに関わることとなりました。大学の研究者の方々とは、いろいろな委員会でお世話になっていましたが、大学との関連プロジェクトを大学研究者と一緒に仕事をするという経験は、今も貴重なネットワークとして生きています。

②住宅計画等は創設当初からの継続業務

昭和56（1981）年に田川市で最も規模が大きい炭鉱住宅地である松原第二団地を「住宅地区改良事業」で再生する仕事を受注して以来、飯塚市、稲築町、宇美町などの炭鉱住宅の改良事業の計画、変更申請等、平成26（2014）年まで30数年間、業務を行ってきました。また、福岡県、大分県の住宅マスタープラン、住宅供給公社の10か年管理計画などの住宅計画の長期ビジョン、市町村の公営住宅等の長寿命化計画策定、県や市町村の公営住宅の需要調査等々、住宅の仕事はソフトからハードに至る案件も含めて、継続して受注してきています。人々の暮らしがある限り、これからも住宅に係る仕事は継続していくものなので、国や県の住宅施策に関する情報のアンテナを張り、継続して仕事をしていきたいものです。

③建設型から縮減型、建替型へ

将来の人口、世帯数の減少を見据え、昭和57（1982）年に公営住宅等長寿命化計画の系統の最初の業務にあたる「小郡市公共賃貸住宅再生マスタープラン」を受託して以来、公営住宅の管理計画の仕事を毎年受注していますが、人口、世帯数が減少している市町村では、公営住宅の管理戸数は削減化の方向にあり、目標管理戸数の設定の理屈付けが大きな課題となっています。

また、総務省が中心となって進めている「公共施設等総合管理計画」や「個別計画」も、人口減少や合併等に伴い、如何に公共施設を削減していくか、ソフトランディングしていくかが大きな課題となっており、一部の人口増の都市を除いて大半の市町村は縮減型へ移行しています。財政が厳しくなる中で、地域住民との合意形成も含め、具体的にどのように縮減していくか、これからの大きな課題と言えます。

よかネットの主な仕事の変遷

④観光振興・観光計画づくり

平成8（1996）年に対馬の観光振興計画を手伝ったのが最初の観光系の業務でした。翌年有田町の観光再発見構想の策定を手伝い、そして平成12（2000）年に佐賀市の観光振興計画に関わるようになって以来、観光分野の業務が続いています。佐賀市観光振興戦略プラン作成･改定業務は、平成28（2016）年まで続き、観光分野の有識者・実務者との協業によって業務経験を積み、また、SNSの口コミ情報の分析・活用など新しい手法を取り入れたことをきっかけに、通信キャリアや技術系のベンチャー企業等、コラボレーションの幅が広がりました。

観光ビッグデータを活用した業務は、インバウンド拡大の影響もあり、年々拡大の傾向にありましたが、新型コロナの影響によりインバウンドは大きく減少しました。しかしながら、コロナ禍克服を見据え、観光は今後も九州にとって重要な産業政策と考えており、引き続き技術力・提案力の研鑽に取り組んでいきます。また、観光と表裏一体にある物産・特産品の調査・流通促進分野にも注力していきます。

⑤総合研究開発機構；通称NIRA（公益財団法人NIRA総合研究開発機構）の調査研究活動

昭和60（1985）年に創設された地方シンクタンク協議会に加入し、早や35年が経過しました。シンクタンク協議会とは、地域に根ざした課題の調査研究や提言活動に携わる全国のシンクタンクが、地方シンクタンク相互の交流を深めることにより､地域における政策研究の質的向上をはかり、地域の自立発展に寄与することを目的に設立された任意団体です。九州・沖縄ブロックは、弊社も含めて4団体の加入となっています。当時、地方シンクタンク協議会ではNIRAの支援もあり、毎年、研究テーマを提案し、採択されると調査研究費が助成されました。

弊社も下記のテーマで調査研究を行いましたが、基礎的な調査研究の重要さ、面白さを実感させていただきました。NIRAは平成19年(2007年)に財団法人総合開発研究機構に組織変更となり、この頃に助成制度が廃止となりましたが、このような基礎的な研究にチャレンジする機会をいただいたことは今でも貴重な財産になっています。このような基礎的な研究公募の機会があれば、今後もチャレンジしていきたいと思います。

1992年	地域における文化・科学技術の推進
1995年	高齢者は何故ふるさとを離れたのか
2002年	個族化社会におけるネットワークの形成
2003年	NIRA型ベンチマークモデルを活用した政策評価システム及び行政評価への提案に関する調査研究（共同研究）
2004年	地域再生～海外に開かれたコミュニティの実現に関する研究（共同研究）

⑥防災、コミュニティ計画づくり

相次ぐ自然災害の経験によって、今でこそ、防災・減災に係る取組は無くてはならないものとなりました。当社が関わるようになったのは、平成25（2013）年に（株）ワーキンググループさんからお声掛けいただいた福岡県の「災害時要援護者避難支援事業」がはじまりです。そこで、地域における防災・減災に向けた取組の必要性や、具体的な活動について学び、その後に受託する「自主防災組織設立促進モデル事業」へと続きます。これらの事業を通じて福岡県内の市町村を回らせて頂き、住宅地から中山間地域、都市部から郊外部と様々な地区における防災・減災の取組の支援を行ってきました。

また、コミュニティ計画づくりとしては、福岡市の「”共創”自治協議会サミット運営支援業務」や「校区ビジョン策定支援業務」などがあります。福岡市の各校区の取組を知ることでコミュニティ活動の幅広さを学ぶとともに、ワークショップを通じたビジョンづくりの手法や、計画に留まらない実践を見据えた進め方は、他の地域でも生かしています。

どちらにも共通する課題として、少子高齢化に伴う担い手不足や活力の低下が指摘されています。少人数でも如何に楽しく、継続できる取組とするか、これからも知恵を絞りたいと思います。

●地域課題、ニーズがある限り、仕事は続く

お施主さんから「よかネットは、何を専門としているのですか？何を得意としているのです

か？」とよく聞かれます。「一応、所員それぞれ、得意分野はありますが、会社自体としてはまちづくり、都市計画の総合コンサルタントです。」とお答えしています。40年間の軌跡をみても、業務の幅は大きく広がっています。これまで、まちづくりや地域振興、住宅計画等々、いろいろな仕事をしてきましたが、時には地域課題があり、お施主さんも落としどころ、最終のアウトプットがなかなか見いだせない仕事を受けることがあります。この場合は、お施主さんと一緒に螺旋階段のごとく、ぐるぐると回りながらも上がったり、下がったりしながら考えていかざるを得ません。新たな地域課題への対応は時間もかかり、大変ですが、次の業務の柱になる可能性を秘めています。

地域が存在する限り、社会的なニーズやトレンド等に対応した地域課題も生まれます。それに伴い、地域課題を解決するお手伝いという仕事も生まれます。

よかネット所員一同、これからも新たな地域課題にチャレンジしていく所存でありますので、今後ともご鞭撻、ご指導のほどお願い申し上げます。

皆様から寄せられた「よかネット」へのご意見、近況などの紹介（敬称略）

■長崎市浪の平地区のまちづくりをシコシコとやっています。長崎住まい・まちづくりトラスト（NPO法人）設立2年目で、事業の具体化をすすめています。　（長崎市　鮫島　和夫）

■自由に語り書け読む事が出来、曲がりなりにも平和を享受している事を知りつつ良い同調圧力になるジャナリズムを今後もつづけて下さい。天にツバする輩が多すぎる。テレビ他映像があるとは言え、無観客オリンピックなど言語道断。ルーツの商い精神を全く忘れている。「たかがスポーツされどスポーツ」程度、世界にはスポーツどころか生きる事に精一杯の人々がどれだけいるかをスポーツ関係者も知る事だ。

（福岡市　西岡　弘）

■2021年6月公益社団法人日本技術士会の副会長に選任されました。2ヶ月に1回、東京の理事会に出席しています。（ワクチンは接種済みです）　（福岡市　田沼　和夫）

■地域活動の参考資料として地域特性をどの様に把握するかといった点で情報源として有用な参考となります。ありがとうございます。

（神戸市　吉田　昭彦）

■楽しみに読ませてもらっています。他地域の取り組みが分かってありがたいです。

（玉名市　由富　章子）

■いつも地域（九州）に根ざした「情」報ありがとうございます。

（大阪市　中塚　一）

■いつもHotな情報のご提供ありがとうございます。地域地域のまちづくり、時流に合わせた活動、勉強になります。今後も宜しくお願いします。機会があれば警固神社でのリアル懇親会の復活を期待します。

（佐賀市　福田　勝法）

■いつも郵送ありがとうございます。子どもも3才7ヶ月になり、まだまだ育児で苦労していますが、子どもとの時間を大切にして頑張っております。

（田川郡川崎町　中島　利男）

■「よかネット」は多彩な話題が満載で、貴重な情報源です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（古賀市　智原　麻紀子）

■地域と時代や生活文化面で関心や興味深いテーマの研究に対して敬意を表します。今後とも地域の生業や生活の再生に貢献されていくことを祈っています。

（彦根市　金井　萬造）

■身近な問題に対し、大上段にかぶらず取り組んでいく研究や実践に、心より敬服致します。東日本大震災から10年経過し当時支援にあたったOBの紙上座談会がありました。（URリンケージ主催）

（春日市　藤原　正教）

■いつもありがとうございます。コロナ禍で大変ですが、地域資源を見直し、再生を目指す良い機会と捉えたいですね。

（下関市　岡本　浩明）

■長年よかネットを送っていただき有難うございました。毎回地域に関するさまざまなテーマ

についての綿密な調査に基づいたレポートを興味深く拝読させていただきました。レポートからいろいろと新しい情報や地域にかかわる問題点等々沢山のことを勉強させていただきました。今後ともそれぞれの地域の活性化へのヒントやアドバイス等の御提言を期待しつつお礼とさせていただきます。

（佐賀市　山口　宗正）

■３月末で福岡県庁を退職しました。現在、公益社団法人福岡県物産振興会に再就職しました。福岡県庁 11F にあります。

（久留米市　上野　孝徳）

■皆さまのますますのご健勝ご多幸を、あわせてご活躍と貴社のご発展を心よりお祈り申し上げます。

（豊岡市　金子　輝雄）

■毎号楽しみにしています。コロナ禍で大変でしょうが、益々の盛隆を祈っています。

（鳥栖市　村上　良知）

■毎号興味深く読ませていただいております。

（東京都世田谷区　脇坂　侃）

■２回のワクチン接種を済ませ、万全の体勢でコロナ禍の沈静を待っていることろです。皆様もお身体ご自愛下さい。

（福岡市　鍬田　一穂）

■今春『参加したくなる会議のつくり方～公務員のためのファシリテーション入門』（ぎょうせい）を出版しました。よかったらご一読ください。

（福岡市　加留部　貴行）

■自宅の屋上菜園、トマト類、きゅうり、なす、ししとう、ピーマン、カボチャ etc. が育っています。2 階リビングバルコニーのゴーヤも元気です。なす、カボチャ以外は沢山採れていますので、ご近所、知人に配っています。それが、めぐりめぐってお菓子や果物になって戻って来ます。小さな物々交換みたいなものですね。

（福岡市　江上　徹）

■ with/after covid-19 の都市の姿と空間像について行政を交えての勉強会が増えています。「よかネット」も参考にさせていただいております。

（札幌市　小林　英嗣）

■いつも大変興味深い記事満載で、目をひきつけられてしまいます。時流に沿った内容ながらも、オリジナルの分析視点があり、改めて認識させられることも多いです。ネット時代ですが、紙で読む方が理解が深まるので、引き続き、送付を希望します。今後も期待しています。

（東京都北区　大竹　亮）

■コロナ禍下、変異ウィルスの出現で益々積極自粛を行っているので、フィールドワークから遠ざかっています。言い訳だけで、具体策の打ち出せない政府に代わって仕切れる人の登場が待たれますね。

（東京都世田谷区　寺島　清）

■いつも楽しく読ませて頂いています。メールよりずっと手に取って読めるので貴重です。

（大阪市　藤本　佳子）

近　　況

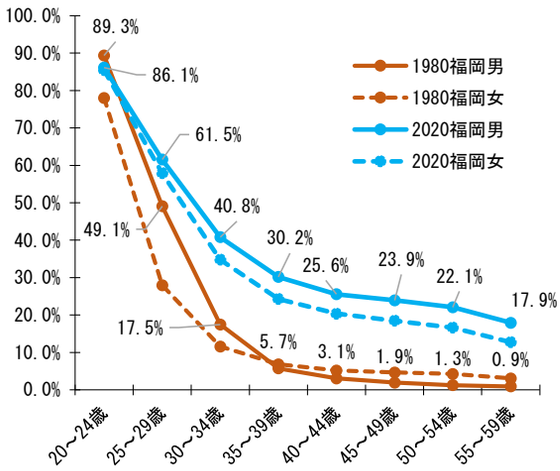
粋 今日をみて、明日に備える

昨年の 11 月に公表された 2020 年実施の国勢調査の結果から、未婚率（一度も結婚経験の無い人）の話題をチラホラと見かけました。当然、男女別、年代別に未婚率は違います。

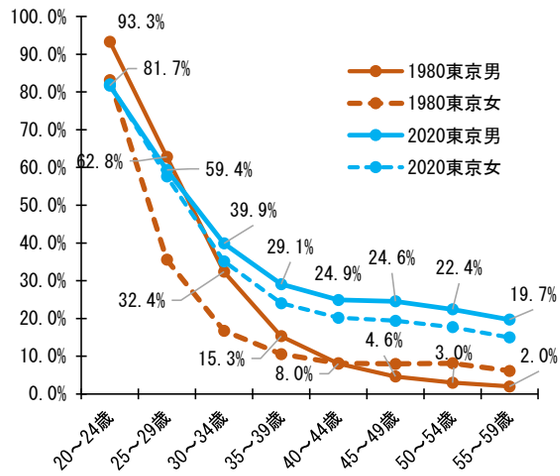
40 年前の 1980 年、事務所に入った頃ですが、この頃の未婚率は、福岡県の男性で 25-29 歳 49.1%、女子で 28.0%でした。この年代を境にして未婚率は 10%台へ急降下しています。東京都では、そこまで下がりませんが、下がる傾向は同じです。そして、40 年後の 2020 年は、男女ともに未婚率は上がっているのですが、女性のカーブが男性とほぼ同様な位置まで上がっていることが分かります。これは東京都も同じような傾向となっています。1980 年代から 1990 年代にかけて、結婚をしない人は「選択的シングル」と言われ、男性は「自由が奪われる」、女性は「求める相手が居ない」とか、「自己実現のために結婚はまだしたくない」など、様々な理由が語られていたことを記憶しています。

そして、今は、「結婚したいけど収入が伴わない」「知り合う機会がない」「あえて必要と思わない」など、仕事や働き方、個人の志向等、様々な理由

福岡県の男女の未婚率の推移（1980 年～ 2020 年）



東京都の男女の未婚率の推移（1980 年～ 2020 年）



があげられるようになりました。

少子化対策には、まず結婚をしてもらうこと、あるいは結婚しなくても生み育てられる環境を作るしかないと言う人もいるようです。

それも大事なことではあるのですが、心配なのは、40 年前の 50 歳代の人は、未婚率が 1 ～ 2%まで下がっていたのが、今の 50 歳代は 10%を超え、2 割まで増えています。しかも、この年代の未婚の方々の半数近くは単身世帯です。

全国の未婚 55-59 歳の男性は 44%、女性は 39%が一人暮らしとなっています。

高齢者単身世帯の見守りや福祉サービスの需要は、団塊世代の高齢化によって量的にはピークが近づいていると思いますが、老々介護も受けられない単身の高齢者は更に増えるかもしれません。

ここ数年、親の介護のために会いに行くことが多くなりました。まるで明日の自分を見ているようで、医療や福祉のサービスの大事さを感じることが増えました。振り返ると同時に、足元をしっかりと見ながら、高齢社会の到来に備えていきたいと思います。　（山辺　眞一）

よかネット10 周年記事を読み返して

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

冒頭に「よかネット 40 周年を振り返る」を書かせていただいた。

40 周年を振り返るにあたって、過去の機関紙や経歴書等を読み返していると、アルパックから分離独立してから 11 年目に、今までの所員が書いたものを集め、再編集し、発行した「ひとネット・よかネット」があった。パラパラと頁をめくっていると、私が書いた「＜ 10 年間を振り返って＞計画に係わるキーワード」という記事を見つけた。

今思うと、計画をまとめる上では、当たり前のことを書いているのであるが、計画に係るキーワードを簡潔にまとめている。手前みそではあるが、改めてポイントを書いてみた。

●現地主義
計画に行き詰まったら、再度、現場に戻り、現場で考えることが大切である。

●人のつながりの大切さ
専門的な知識をもつ人とどれだけ繋がっているかで計画の質も効率も格段に向上する。

●本当にやりたいと思っている人がいないと計画は進まない。
事業化を進める場合は、「実現したい」と熱い思いのある人、地域でないと合意形成も難しく、次のステップへ進めない。

●仕入れについて
我々の仕事は、物を仕入れるのではなく、先進地等の視察、キーマンの人からの計画や事業化への思いといったコトを仕入れることが大切である。

上記の 4 つの項目のなかで気になるのが「仕入れ」である。今は、ワクチン接種の効果なのか分からないが、コロナ禍は少し落ち着いてきている。

しかし、2年前からのコロナ感染の拡大に伴って、イベントや先進地視察も中止になることが多く、あまり「仕入れ」ができていない。今はインターネットで表面の情報は得られるが、本音の情報は、現地に出向かないと得られないし、感じられないと思う。

私自身、新たな「仕入れ」がない分、視野も狭くなっているように感じる。

今年は、仕事でもプライベートでも知らない街、面白い街を訪ね、「仕入れ」をしようと思っている。コロナ感染の第六波が到来することなく、コロナ禍が収まってくれることを祈るのみである。

（山田　龍雄）

地域資源を活用した産業振興の支援

2010年代の中盤以降、インバウンド市場の急成長もあり、私の業務の大半を観光の現状調査やマーケティング施策立案、自治体の観光計画策定支援業務が占めていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあってか、観光客の実態調査、計画策定の業務は例年よりも減少している状況です。

また、2011年の福岡市「アジアのリーダー都市ふくおか！」プロジェクトで「福岡市」という言葉が入ったツイッターの投稿収集・分析業務に関わって以来、パートナー企業やアドバイザーの先生方とともにSNS投稿収集・分析業務を10年間続けてきました。

近年はインスタグラムの流行に伴い、そのトレンドを調査するニーズが高まっており、当社は2015年から観光客のインスタグラム投稿を分析する業務を受託しています。2019年に、このワークフローを機械化し、インスタグラムの投稿を大量に収集し、画像を全てダウンロードしてGoogleのAIで被写体や場所を検出する機械を開発し、大阪府、佐世保市周辺、鹿児島県、福井県等で調査を実施しましたが、今年は小休止です。

ただ、観光復興・インバウンド復興時に、地域の観光業界に活用してもらえるサービスの実現を目指し、この取り組みを少しでも前に進めようと思っています。

今年はこれまで時間や資金を投資してきた分野の勢いが少し弱まりましたが、代わりに交通政策分野や、物産の輸出支援の事業は例年よりも多い状況です。いずれも観光産業とは近しい分野であり、組織としての課題解決力を伸ばす良い機会になるかと考えています。

今年も、アドバイザーの皆様、パートナー企業の皆様と協力しながら技術力を磨き、各地域のお役に立てればと存じます。　（原　啓介）

必要とされる専門家をめざして

入社以来、関わらせて頂いた分野は都市計画、住宅計画、交通計画、商業振興、観光物産振興、福祉（子育て、高齢者）、コミュニティ、防災・減災などです。よかネットでは、総合計画、コミュニティ計画（含む活動支援）、防災・減災計画（含む活動支援）、商業活性化計画などを中心に携わっています。

改めて、この仕事の魅力は何かと言えば、3つあると思います。1つは、それぞれに面白さがあり、難しいところがあって、求められるものも様々だということ。もう1つは、それらに対してチームで取り組み、課題を解決したり、よい部分を更に伸ばしたりして、よりよい地域づくりに貢献できること。そして、何よりも色々な地域に行って、その土地の美味しいものや、美しい景色、人々に出会えること。

気がつくと今年、よかネットに入社して10年目です。前職の（株）地域計画建築研究所（アルパック）から通算するとこの業界に入り16年目となります。最年少で入社したあの日から、月日は流れて今では立派な中年となりました。

ここまで続くとは自分でも驚きです。一度、アルパックを退社したわけですが、ご縁を頂いて九州事務所であるよかネットで働いています。有り難いことです。先輩や同期、後輩の支え、そして家族の理解あってこそです。

今年一年も、体調に気をつけて走り抜けたいと思います。皆さまのご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いします。

追伸：近年、減量目標を掲げてきました。本原稿を書いている時点（令和3年12月）の体重は82キロ。一時期80.8キロまで下がったのですが、ちょっと増えました。今年こそは、80キロを切ることをめざします。　（山﨑　裕行）

林 8/40

入社して今年で8年目になります。会社の40年の歴史で考えれば1/5の期間ではありますが、振り返れば様々な業務に携わってきました。

入社した2015年は、地方創生がスタートした年であり、今思えば右も左もわからぬまま、将来人口の推計をしていました。翌2016年には熊本地震の復興に関わりました。当時の話ではいつになるのかと言われていた、阿蘇大橋も昨年開通し、ニュースを見たときには時の流れを感じました。業務を離れて以来、なかなか南阿蘇村には足を運べていませんが、今年中には行けたらなと思っています。2018年頃からは、観光関連の業務にも携わるようになりました。コロナ前はインバウンド、コロナ禍となってからは、ウィズコロナ・アフターコロナというように、視点は移り変わりつつも今でも業務が続いているのはありがたいことです。2021年には、MaaSをはじめ、これまでにはなかったような業務に携わる機会がありました。特にMaaSはホットなテーマとして、そのキーワードがもつパワーにもやや圧倒されながら、何とかゴールまで走り切りたいと思っているところです。

上記に挙げたようなところ以外でも、建築関係で公共施設等総合管理計画や公営住宅等長寿命化計画、他にも総合計画や諸々・・・幅広くやっているなと我ながら思う反面、そろそろT型に向けた深化をしていかないといけないなと思っております。

さて、業務としては幅広ですが、入社以来、あるいは学生時代も含めると10年以上のお付き合いとなっているのが、GIS（地理情報システム）です。学生時代に使い始めたころは、そもそもの概念が良く分かっておらず、ソフトウェア自体の操作にも四苦八苦していましたが、ここ数年はようやく友達になれたかなと思っています。かつ、10年前と比べればビッグデータの流れが加速しているのも後押しになっているのでしょうが、有料・無料問わず使えるデータの種類も量も圧倒的に増えてきたように思います。一方で、データ量が膨大になればなるほど、これまでの経験では対応できない部分も増えており、WEBの記事を漁りながらなんとかかんとか目的の分析結果を導いているといったところです。

GISの強みは、位置（住所や座標）さえ持っていれば、いくつもの情報を重ね合わせて、新しい情報を生み出すことができるところにあると思っています。特に「可視化」の力は強く、地図が一つあることで全然反応が違うことも多々ありました。GISに限らずですが、この進化は日進月歩のところもあるので、乗り遅れないようについていきたいものです。

とはいえ、GISはあくまでも手段であり、その分析結果を受けて計画や施策の提案までつなげるのが重要です。そうなると先にも述べた自己の「深化」が必要となります。

『「進化」に遅れず「深化する」』、落ちたようで落ちていない気もしますが、これを今年の抱負とし、次の40年に向かっていければと思っております。　（櫻井　恵介）

林 オタ活コロナに邪魔され続ける

航空オタ9年目に突入しました。2020年に引き続き2021年もコロナのせいで、どこの基地の航空祭も中止になりましたが、ブルーインパルスは、オリンピック・パラリンピックや回数は少ないですが地方のイベントでも飛行していました。

●久々の遠出

イベントのほとんどが緊急事態宣言中やまん延防止等重点措置中だったこともあり行けずにいましたが、緊急事態宣言が明けた11月、ブルーの本拠地東松島市の産業祭で飛ぶというので行ってきました。

ブルーの地元東松島での飛行

遠出するのが久々すぎて持っていくものを用意するのに時間がかかり、現地で合流する友達と寒さ対策の相談をしながら、テンションマックスで荷造りしました。

1年3か月ぶりの松島行きに、出発当日は福岡空港から始まり仙台空港、仙台駅、矢本駅（基地最寄りの駅）とノスタルジーに浸っておりました。

●久々の生ブルー

産業祭当日、ブルーの飛行は午後からだったので、午前中に祭りの会場に行き出店を見て回りました。

午後から雲がでてきて青空の下でのブルーとはなりませんでしたが、久々に生でブルーが見れて、大満足でした。

オリンピック・パラリンピックの時はライブ配信で見ましたが、音や振動やにおいや、真上を通る時に体がのけ反ったり、近くの人と自然と話したり、友達とワイワイしながら見たり、配信には無い生ならではの醍醐味を味わいました。

●事務所開設40周年

今年で事務所開設40周年になります。入社した頃、パソコンは既にありましたが、まだまだ主な連絡は電話かFAXで、よかネットの冊子の編集は紙で割付、分からない言葉は辞書で引く、という時代でした。

今ではほぼパソコンでできるようになり便利になりました。

今年もまだまだコロナの変異などで以前通りにとはいかないと思いますが、変わっていくものも楽しんでいけたらと思います。

今年もよろしくお願いします。

（佐伯　明日香）

枠 ドメーヌ・テッタに行って来ました

●ドメーヌへの旅

昨年11月下旬、「用心が不要になる状況は当面望めない。コロナとその対策は常にそばにある。」と考え、思い切って2泊3日で、岡山県のドメーヌ・テッタを訪ねました。

旅の同伴者は、家にこもりがちな高齢者である実父および大学生の姪とその両親。そもそもこのワイナリーを知ったのは、姪がドメーヌ・テッタのワインを飲み、「おいしかった」「ラベルがおしゃれ」「小さな新しいワイナリーらしい」という断片的な情報をもたらしたのがきっかけ。彼女が最初にワインを飲んだのは2年前でしたが、一昨年は訪問を見合わせ、昨年出かけることにしました。

●ドメーヌ・テッタとは

ドメーヌ・テッタは岡山県新見市哲多町にあります。平成21年に会社が設立されて耕作放棄地の再生を始め、以来、ワイン用ブドウを植え付け、酒類販売卸売業免許・果実酒製造免許を取得し、ワイン醸造を始めて、最初のヴィンテージワインをリリースしたのが平成29年。東京都在住の私の姪が口にしたのがその2年後ですから、およそ700ｋｍの距離を、どういう経路なのか2年かけて伝播したことになります。

ドメーヌ・テッタ　建物の入り口回り

ドメーヌ・テッタで販売しているヴィンテージワイン

末端の事情としては、姪がバイトをしている飲食店が、取引先の酒屋さんの紹介で数本購入し、それを試飲させてくれたとのこと。そこから数時

ドメーヌ・テッタ周辺に広がるぶどう畑

カフェの様子

ぶどうの作付見取り図（品種別）

ランチセットのオードブル盛り合わせ

間で福岡にいる私に情報が届きました。

立地は、特急の停車駅から車でおよそ 30 分でしたが、公共交通機関はなく車のみのアクセス。周りに建物は見当たらず、まるで「〇の中にポツンと〇〇〇」です。そのおかげで広々としたぶどう畑の風景を独り占めです。

●地質とぶどう

現在ワイナリーでは、数種類のワインが生産・販売されています。

この付近は土壌が石灰岩質で、それがぶどうの栽培に適していて、また、Web サイトによると地域の主要な産業である石灰岩採掘トンネルを天然ワインセラーとして利用しています。土地・地域と結びついた営みなのだと感じます。

●カフェもあった

コンパクトながら立派なカフェもあり、ワインとともにランチを楽しむことができました。

まだ新しいワイナリーが、これからもしっかり根付き成長するといいな、と思いながらこの地を後にしました。

●今年は何に出会うか？

世の中には新しいワイナリーがあり、伝統を誇るワイナリーがあり、それ以外にも「あ、面白そう！」と感じるものは数多くありますが、情報だけを手にすることが多く、「ふれる」までには至らないことがほとんどです。断片的な情報からも何か見つけたいです。数多い刺激に囲まれて大変幸せなことですし、今年は何に出会えるでしょうか、楽しみです。　（福吉　聡子）

よかネット 色々な場所をめぐりたい

時の流れは早いことで 4 月に入社し、約 1 年が経過しました。当初は今まで経験したことのない分野の業務に戸惑うことが多くありましたが、最近は慣れてきました。けれども、電話応対はいまだにあたふたすることがあるため、スマートな対応を行うには訓練がまだまだ必要なようです。現在は、総合計画、観光分野、交通分野、建築分野など様々な業務に携わっています。今まで関わりが少ない分野のため、日々学ぶことが多いです。

昨年も新型コロナに翻弄される 1 年が続きまし

た。4月に福岡に来て以来、半年間は緊急事態宣言や蔓延防止措置の関係で外を出歩く機会は少ない状況でした。最近はコロナも落ち着いてきたので、少しずつではありますが、福岡のまち探索を兼ねて色々な場所へと出かけています。まち探索では、まちの雰囲気をあじわいたいので、普段よりもゆっくりと歩きまちなみを見ています。お洒落な店を発見したり、偶然見つけたマルシェに立ち寄ったりなど、通勤や自動車の運転時には気づかなかったまちを見つけることができるため、週末の楽しみにしています。

今年は、私自身の見識を深めるためにも福岡市内に限らず、九州各地の色々な場所を訪問し、食文化や歴史などに触れる機会を増やしていきたいです。昨年9月に、観光分野の業務の関係で地元の大分県の道の駅を巡りましたが、地元のことでも知らないことが多く、色々な再発見がありました。これからは、実際に現地に行き、現地でしか気づけないようなことを体験することにより見識を深めたいと思います。昨年はコロナの影響で県外にはなかなか行けなかったので、今年こそは色々な場所に行きたいと思います。

昨年は天神のシンボルであったイムズの閉店、最後の福岡国際マラソンといった長年の歴史に幕を閉じたものがありました。個人的には中高6年間陸上の長距離をしていたこともあり、福岡国際マラソンが終わることが残念でした。大会当日は沿道に応援に行きましたが、最後の大会を見ようと大勢の人が沿道に集まっていました。

今年一年も新しく学ぶことも多いと思うので、昨年以上に日々精進していきたいと思います。皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。　（益戸　亮平）

表　紙　解　説

表紙のデータは、KDDIのスマートフォンユーザーのうち、特定のアプリ利用者数1千万人弱（数値は非公表）のGPS位置情報をもとに、福岡市内の主要エリアへの入込客数を推計したものです。

駅や公園、商業施設の敷地を囲んだポリゴンを作成し、6時から24時の間に、そのエリア内に15分以上滞在した人数をカウントしています。

入込客数の変化を算出するための比較対象となる数値は、新型コロナウイルス感染症流行前の2020年1月18日～2月14日における各エリアの平日・休日の入込客数の平均値です。この平均値をベースに、それ以外の時期の平日・休日の入込客の増減率を算出しています。

上記のとおり、増減のベースとなる数値は1月～2月（冬季）の入込客数であることに留意する必要があります。

下表は、新型コロナウイルス感染拡大以前とそれ以降での「博多駅」の来訪者の居住地を示したものです。コロナ禍以前と比べると福岡市内の来訪者の割合が増加しています。その他の市内の主要エリアについても同様の傾向がみられました。

博多駅の来訪者の居住地（2019年/2021年）

来訪者の居住地	2019年	2021年
福岡市	44.1%	49.2%
福岡市を除く県内	28.6%	28.2%
福岡県を除く九州地方	12.1%	9.4%
関西地方	4.2%	4.0%
関東地方	4.4%	4.0%
その他	6.6%	5.1%

編集後記

編集が年の瀬に近くということもあり、街中はきれいなイルミネーションが並んでいます。今年はコロナに左右ずされず、イルミネーションのような彩りある1年になってほしいです。（益）

よかネット　No. 145　2022.1
（編集・発行）
㈱よかネット
〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町３番８号
福岡パールビル８階
TEL 092-283-2121　FAX 092-283-2128
http://www.yokanet.com
mail:info@yokanet.com
（ネットワーク会社）
㈱地域計画建築研究所
本社　京都事務所　TEL 075-221-5132
大阪事務所　TEL 06-6205-3600
東京事務所　TEL 03-5244-5132
名古屋事務所　TEL 052-462-1030